

東京都立 多摩総合医療センター

副院長着任のご挨拶



多摩総合医療センター
副院長 阿部 和也

4月1日に押正也副院長の後任として「たまほく」（東京都保健医療公社 多摩北部医療センター）から異動し着任いたしました。地域連携を担当させていただくこととなりました。精一杯努めますので、ご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

前任地でも地域連携を担当しておりましたが、300床規模の病院でしたので、主な連携先は「たまほく」が所属する北多摩北部保健医療圏（東村山市、清瀬市、東久留米市、小平市西東京市）内部の病院・診療所でした。

当院は地域医療支援病院としての使命を果たすという基本方針に基づき、北多摩南部保健医療圏（武蔵野市、三鷹市、府中市、調布市、小金井市、狛江市）の医療機関と密接に連携して圏域に供給される医療の安定化と質向上に努めるのはもちろんですが、基本方針には多摩地域の中核病院としての使命を果たすことも挙げられており、そのためには隣接する二次保健医療圏とも連携する必要があります。東京都の地域医療構想でも、構想区域としては従来の二次保健医療圏が「病床整備区域」となって踏襲されることになりましたが、東京都の場合、構想区域内での医療の完結率は低く、逆に周囲の二次保健医療圏を併せると高い完結率となる傾向があります。このことから、隣接する二次保健医療圏どうしの連携が非常に重要であることがわかります。当院としても、隣接する医療圏の病医院とも積極的に連携していきたいと考えています。

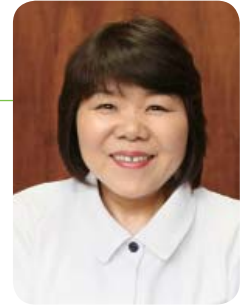
ご承知のように、2025年に向け医療環境が激変しつつあります。また、社会保障費の増大に対し、国は医療費の削減策を次々に打ち出しています。そのような状況下で、質の高い医療を長期にわたり安定的に供給するためには、医療機関どうしの連携がますます重要になります。「連携」と言うより「協働」と言ったほうがふさわしいかもしれません。

前任地「たまほく」では「腹の見える連携」を目指しました。この言葉は政策研究大学院大学の島崎謙治教授の受け売りなのですが、非常に良い言葉だと思っています。当院でも引き続き「腹の見える」連携を目指します。疑問・ご指摘などありましたら、何なりとご連絡ください。



看護部長着任の挨拶

看護部長 藤田 枝美子



本年4月1日付けで、畑田看護部長の後任として着任いたしました藤田と申します。医師会の先生方、医療関係機関の皆さまには、平素より当院の医療連携にご理解・ご支援を賜り厚く御礼を申し上げます。

私は旧府中病院を含め多摩総合医療センター勤務は4度目となります。年々、多摩総合医療センターが地域の皆さまとの連携・協同が深まっていると実感しております。看護部門では、平成24年から立ち上げた総合患者支援センターにおいて、一人でも多くの入院患者さんをお受けするための病床マネジメント、入院前に医療チームが係り、安全に入院治療・手術を受けて頂くための入院サポートセンター、がん相談のための専従担当者の設置など、積極的に推進してまいりました。今年度も地域の皆さまとの医療連携をより円滑に行い、地域医療の質向上に貢献できるよう努めてまいります。今後ともご支援・ご協力をお願い申し上げます。

都立多摩総合医療センター 人事異動

【転入】平成28年4月1日付

副院長 阿部 和也

【採用】平成28年5月1日付

脳神経外科医員 久保田 真由美

【昇任】平成28年4月1日付

救急・総合診療センター医長 綿貫 聡

【転出】平成28年4月1日付

外科部長 足立 健介
形成外科部長 樋口 良平

【採用】平成28年3月1日付

救命救急センター医員 光銭 大裕

【退職】平成28年3月31日付

副院長 押 正也
眼科部長 鶴岡 一英
精神神経科医長 安來 大輔
精神神経科医長 奥野 薫
内科医員(腎臓) 平澤 卓
循環器内科医員 植松 庄子
呼吸器・腫瘍内科医員 阪下 健太郎
呼吸器・腫瘍内科医員 横江 絢子
精神神経科医員 佐々木 雅明
脳神経外科医員 寺西 裕
皮膚科医員 神崎 綾乃
泌尿器科医員 内藤 晶裕
産婦人科医員 金沢 誠司

【採用】平成28年4月1日付

内科部長(神経・脳血管内科) 上田 雅之
形成外科部長 磯野 伸雄
内科医長(神経・脳血管内科) 西山 康裕
血液内科医長 山田 一成
内科医員(神経・脳血管内科) 村賀 香名子
内科医員(消化器) 藤木 純子
内科医員(感染症) 田頭 保彰
呼吸器・腫瘍内科医員 高橋 由希子
呼吸器・腫瘍内科医員 大橋 佳奈
精神神経科医員 山口 順嗣
精神神経科医員 福島 康浩
精神神経科医員 日野 慶子
皮膚科医員 脇本 紘子
産婦人科医員 本多 泉
救急・総合診療センター医員 荒川 裕貴
救命救急センター医員 笠原 道
麻酔科医員 高田 真紀子





形成外科 部長 磯野 伸雄

本年4月1日付で樋口良平部長の後任として形成外科部長として着任いたしました。地域医師会、医療機関の先生方にはこれからもお世話になると思いますので、よろしくお願いいたします。

形成外科の紹介

形成外科はなじみのない先生もいると思いますので紹介いたします。形成外科おもに顔面や手足の外傷、皮膚や皮下腫瘍、体表面の先天的疾患、難治性皮膚潰瘍、頭頸部、乳癌切除後の再建術を主に扱う科であります。

形成外科は大きく再建外科と美容外科に分けられます。再建外科は、「生まれつきや病気、けが、腫瘍などにより変形したり、失われた機能や外見を形成外科的手技により修復し、より健全な状態に近づけることで生活の満足度QOLを向上させる」外科であります。たとえばやけどの瘢痕や瘢痕拘縮(引きつれ)に対して形成外科的手技をもちいて治療したり(図1~3)、皮膚悪性腫瘍切除後の皮膚欠損に対して積極的に皮弁を用いて整容的、機能面を重視した手術を行い(図4~6)、口腔外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科で頭頸部腫瘍切除後の組織欠損にたいして遊離皮弁などを用いて再建したり、乳腺外科により行われた乳がん切除後の乳房欠損に対してエキスパンダー、インプラントや皮弁を用いた乳房再建を行っております。『美容外科』は「客観的に病気と認められない体表面の形態的变化を形成外科的手技により改善させる」外科であり、あざの切除やけがややけどの瘢痕に対する治療を行います。

当科は日本形成外科学会認定医2名、熱傷学会認定医2名、創傷外科学会認定医、皮膚腫瘍外科専門医がおり、日本形成外科学会認定施設、熱傷専門医認定研修施設、乳房再建用インプラント認定施設であります。

代表的な疾患

1. 顔面外傷、顔面骨骨折(頬骨骨折、眼窩床骨折、下顎骨折、鼻骨骨折)：顔面の外傷では傷跡(瘢痕)を目立たないように丁寧に縫合します。縫合した傷跡(瘢痕)が目立つ場合でも、手術などのいろいろな治療を行い傷跡(瘢痕)を目立たせなくします。涙小管損傷や皮膚の欠損などの特殊な顔面外傷にも対応しています。
2. 皮膚、皮下腫瘍：皮膚にできたしこり(良性腫瘍)やほくろの切除から脂肪腫などの皮下腫瘍の切除、摘出術を行います。単に切除するだけでなく、小さな傷や傷跡が目立たない縫合を行います。皮膚の悪性腫瘍では皮弁を用いて、整容面を考慮した治療を行います。
3. あざ、母斑：血管腫(赤あざ)、色素母斑(茶あざ)など生まれつきの色素性病変に対して、切除や皮膚の移植、皮膚を拡張させるエキスパンダー法などを用いて外科的治療を行います。
4. 熱傷：受傷直後の初期治療から熱傷後の瘢痕拘縮ケロイド(やけど後のケロイドや傷跡、ひきつれ)の機能的な問題や見た目を改善させる治療を行います。
5. 難治性潰瘍：仙骨部じょく創(床ずれ)やなかなか治らない皮膚の潰瘍の治療を行います。
6. 美容的疾患：眼瞼下垂症(先天性、老人性)を主に取り扱っています。

見た目を良くする重瞼手術(二重まぶた)や隆鼻術などの美容下整形外科手術は行っておりません。

その他にもいろいろな疾患について扱っております。詳しくは日本形成外科学会のホームページ(www.jpms.or.jp)の形成外科で扱う疾患をご参照ください。



図1 前額部瘢痕



図4 下眼瞼部基底細胞癌



図2 エクスパンダーで皮膚を伸展



図5 拡大切除、皮弁術



図3 再建術後1年



図6 皮弁術後6ヶ月



公開CPCのご案内

顔の見える医療連携の更なる推進を図るため、これまで院内で行なっていたCPC（臨床病理検討会）に地域医療機関の先生方にもご参加いただきたく、ご案内させていただきます。是非ご参加くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

毎月第3木曜日 午後6時～午後7時 4階401会議室
(28年12月、および29年2月は休会。都合により開催日を変更する場合があります。)

●● 各種講習会・勉強会のご案内(医療従事者向け) ●●

医療連携臨床懇話会

平成28年6月16日(木)午後7時～午後9時 都立多摩総合医療センター講堂フォレスト

- 「最新の大腸がん治療」 外科医長 宅間 邦雄
- 「成人にみられる斜視について」 眼科医長 大野 明子

●● 各種講習会・勉強会のご案内(患者さん向け) ●●

※参加無料、事前予約不要です

糖尿病講習会 (会場：都立多摩総合医療センター講堂フォレスト)

- 「糖尿病網膜症」「点眼薬を正しく使いましょう」「外食・宅配等の利用方法」
日時：平成28年6月15日(水)午後2時～午後4時
- 「糖尿病腎症」「透析療法の実際」「腎症予防に向けての食事」
日時：平成28年7月13日(水)午後2時～午後4時
- 「糖尿病のセルフコントロール」「糖尿病内服薬の飲み方」「糖尿病手帳の使い方」
日時：平成28年8月17日(水)午後2時～午後4時
- 「糖尿病の内服薬」「糖尿病の運動療法」「嗜好品等について」
日時：平成28年9月21日(水)午後2時～午後4時

当院は原則として、**紹介予約制**です。
外来及びCT、MRI検査は必ず予約を取り、
紹介状をお願い致します。

<電話予約センター>

月～土 受付時間 午前9:00～午後5:00

TEL：042-323-9200

ご意見、ご投稿、お問い合わせは
医療連携担当(高橋・飯岡 内線2171)まで

<FAXによる診療予約>

月～土 受付時間 午前9:00～午後5:00

FAX：042-323-9205

緊急の場合…必ず事前にご連絡ください

代表電話：042-323-5111から、①平日の午前9時～午後5時は「〇〇科責任医師」、②午後5時以降、土曜日、日曜日及び祝祭日は「〇〇科の救急担当医」とお申し付けください。

※一部の診療科では、夜間・休日は専門医がおりませんので診療できない場合があります。

※受診が決まった場合は、患者さんに紹介状(診療情報提供書)をお渡しください。

東京都立多摩総合医療センター

〒183-8524 東京都府中市武蔵台2-8-29
TEL 042-323-5111(代表)

